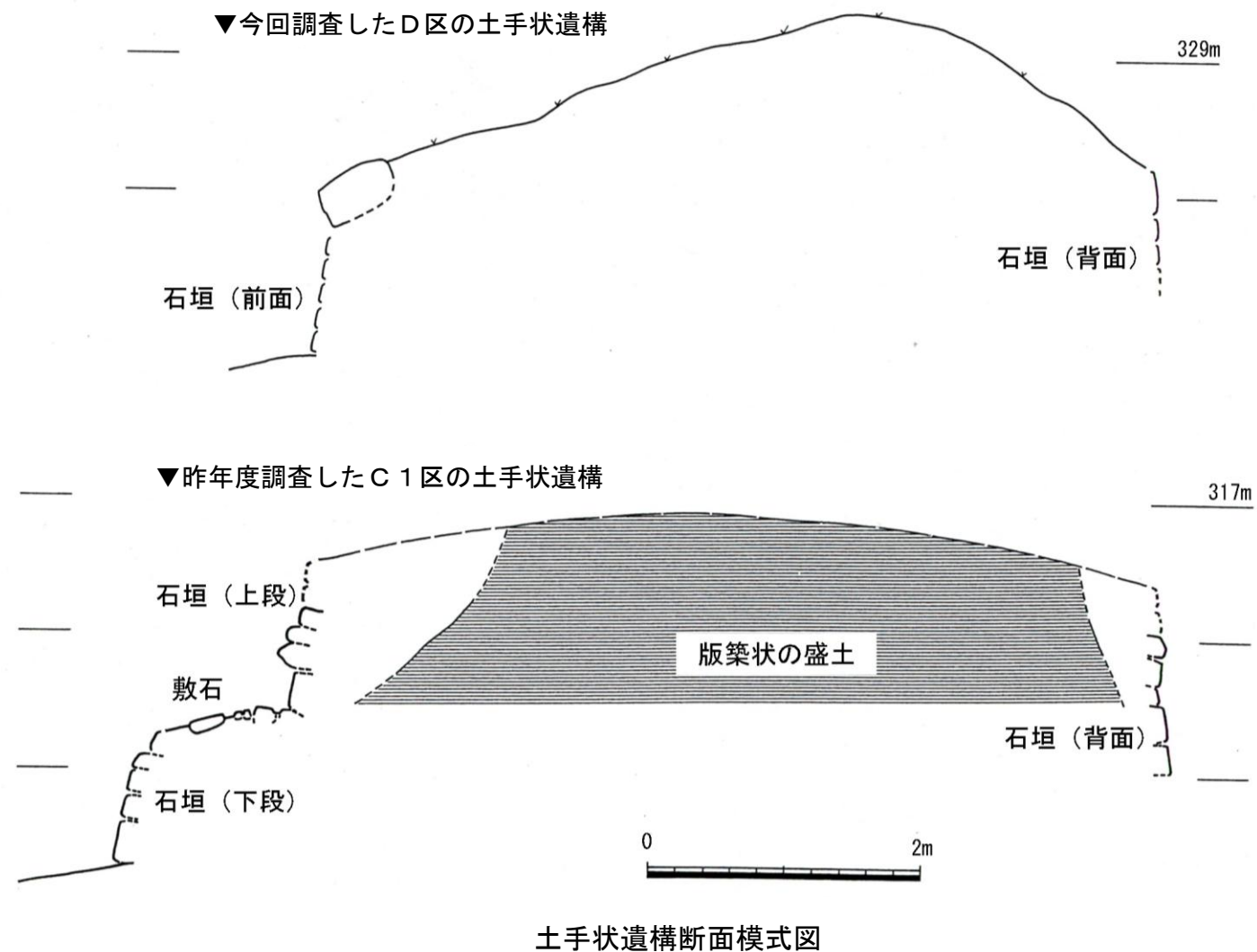


今回検出されたD区の土手状遺構を、昨年度に調査した第5水門裏の土手状遺構（C1区）と比較してみましょう。C1区の土手状遺構は、前面に2段の石垣をもつ幅約8m、高さ2.5m以上の堰堤で、前面には敷石が設けられていました。本体は盛土で、版築を思わせるように土を層状に積み上げていました。

D区の土手状遺構は、1段で、敷石を設けておらず、本体もC1区のように層状を呈していない点など築造工法の違いがみられます。しかしながら、前面と背面に石垣を採用している点、また、C1区の土手状遺構の上段部と幅がほぼ同じである点から設計上の関連性がうかがえます。

D区の土手状遺構は、石垣の積み方などから鬼ノ城期のものと推測していますが、後世の修築の可能性も考えられることから、引き続き検討しています。



鬼ノ城大公開も今回
でおしまいだ。謎は
解明されたかな？

うらパパ

どうかしら？
まだまだもっと
知りたいわ。



うらママ

※調査中のため、上記内容は変更となる可能性があります。

〈お問い合わせ〉 岡山県古代吉備文化財センター 〒701-0136 岡山市北区西花尻 1325-3
電話 086-293-3211 ホームページ <http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kodaik.htm>

甦る！古代吉備の国

謎の鬼ノ城 城内調査大公開 vol.XII

平成23年11月28日（月）～12月4日（日） 岡山県古代吉備文化財センター

ようこそ！鬼ノ城へ

岡山県古代吉備文化財センターでは、「甦る！古代吉備の国～謎の鬼ノ城」調査事業を平成18（2006）年度から行っています。この発掘調査の成果を通して、岡山県が誇る歴史と文化を再発見していただくため、調査現場を公開いたします。

鬼ノ城ってなに？

鬼ノ城は、今から1,300年あまり前につくられた城です。吉備高原の南端、標高約400mの鬼城山山頂に位置しています。

西暦663年、朝鮮半島で滅ぼされた百済を救援するため、日本は援軍を送りますが、唐と新羅の連合軍と戦い大敗します（白村江の戦い）。その後、唐・新羅の連合軍が日本にまで攻めてくることを恐れた日本の政権は、西日本の各地に城をつくらせました。鬼ノ城は、そのような古代山城のひとつと考えられていますが、記録が残っていないため、はっきりしたことは分かっていません。



▲復元された鬼ノ城西門



今年が、調査の
最終年度
なんだね。

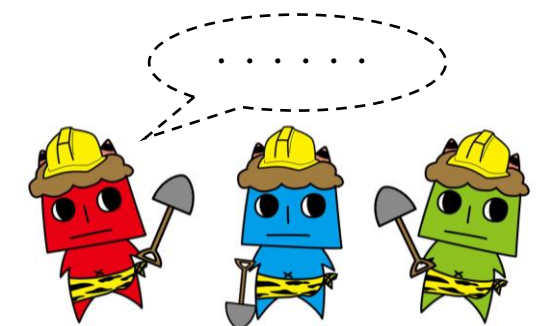
みこっちゃん

今年度の調査

今年度は、これまでの調査成果から、さらに調査の必要があると考えた場所を中心に、城内3か所の調査を行っています。

今回見学いただく調査地はそのうちの2か所で、城内施設の確認を目的としたA1-2区と、土手状遺構の解明を目的としたD区の調査を行っています。

なお、岡山県古代吉備文化財センターが実施する城内発掘調査は今年度が最終年度となります。



うら坊三兄弟

※この資料の引用・転載はご遠慮ください。

鬼ノ城のつくり これまでの成果から

土塁や石垣でつくられた城壁が、山頂近くを鉢巻状に取り囲んでいます。その長さは全周約2.8km、囲まれた城内面積は約30haあります。城壁の東西南北4か所には城門をひらき、また雨水を城外へ排水するための水門が6か所設けられています。

これまでの城内を中心とした発掘調査で、礎石建物7棟が確認されたほか、鍛冶工房跡や土手状遺構など、鬼ノ城の施設の様子が分かってきました。



土手状遺構：城内に水を溜め、城壁を土石流などからまもるために築造されたことが分かりました（H22 調査）



礎石建物群：城の管理棟と、食料などを貯蔵した倉庫があわせて7棟見つかりました（H19・20 調査）



多量の土器が出土：尾根上で基壇状遺構や柱穴などとともに、多くの土器が出土しました。鬼ノ城の時期を推測する好資料を得ることができました（H18 調査）



鍛冶工房跡：たくさんの炉を築き、城内で必要な鉄の道具を製作した工房の跡です（H21 調査）

調査速報(その1) A1-2区の調査

A1-2区は、平成18年度に調査したA1区の北隣りに位置します。A1区では、基壇状遺構や石列、柱穴、土器溜まりなどが検出され、兵舎（居住地）ではないかと推測されました。

今回の調査区では、平成18年度調査と同様に、建物などの施設や生活痕跡の検出を目的に調査を行いました。その結果、柱穴や焼けた穴などが発見されました。現在のところ建物跡は確認されていませんが、人々の活動痕跡をうかがいしることができる土器も出土しています。



焼けた穴：火を受けて周囲が赤色に変色しています

調査速報(その2) D区の調査

土手状遺構

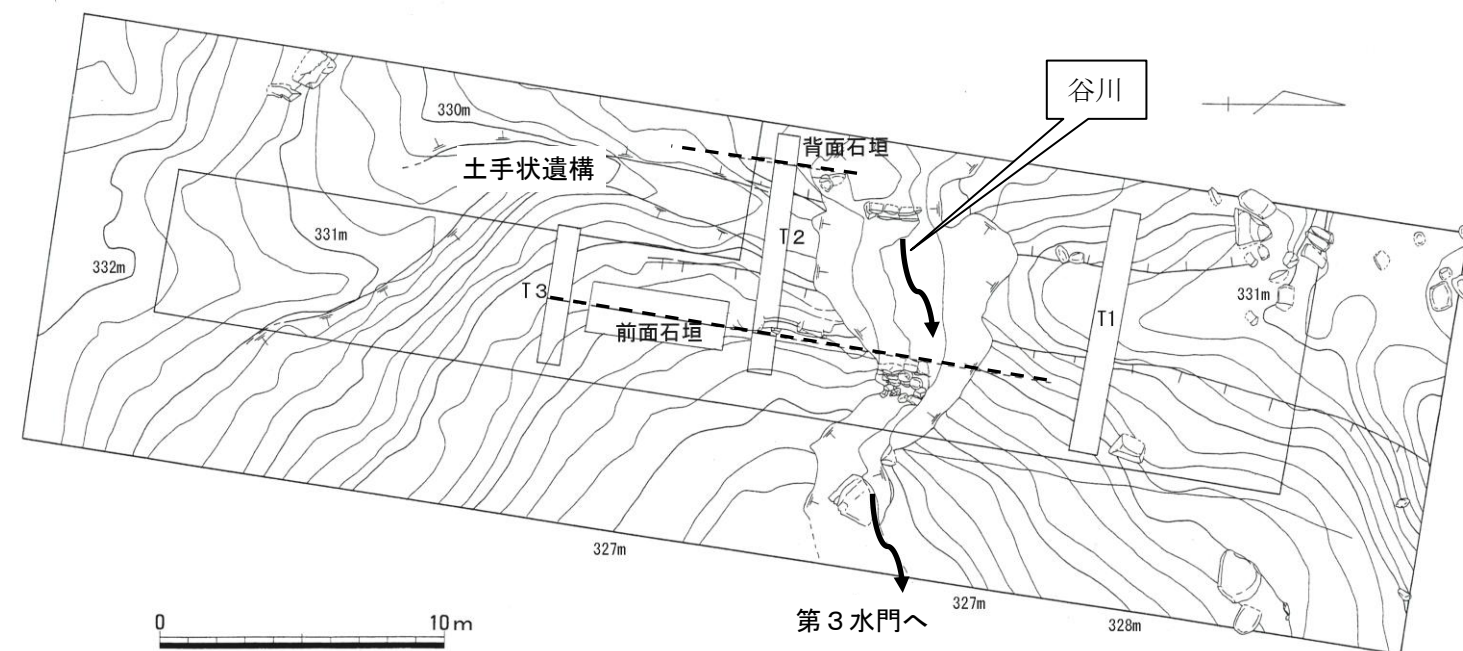
D区に存在する土手状遺構は、第3水門の上流にあたり、調査前から石材が露出しており、鬼ノ城に関連する施設と考えられていました。

調査の結果、土手状遺構は前面と背面に石垣をもつ少なくとも長さ20m以上、幅約6m、高さ2m以上の堰堤であることが推定できました。

石垣は小さい石を積み上げたのちに大きな石材を上面にのせているのが特徴です。本体は、土で盛り上げられていましたが、土を薄く突き固めながらつくる版築のような構造ではありませんでした。



土手状遺構の前面石垣：小さな石を積み上げ、上面に大きな石材をのせています



D区の遺構配置図